

第2期江府町まち・ひと・しごと総合戦略検証結果
～持続可能な「3000人の楽しい町」～

【基本目標Ⅰ】 新しい人の流れの創出

指標	目標数値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	有識者からの意見	今後の対応方針
住基人口	2,757人(令和3年1月末) →2,400人(令和7年末)	2,648	2,596	2,517	2,461			
転入数	57人(令和元年度末) →60人(令和7年度末)	42	56	66	69			
転出数	114人(令和元年度末) →70人(令和7年度末)	75	62	77	77			

●【基本目標Ⅰ】に対する個別評価

取組	策定時	目標値	実績値 (R3年度)	実績値 (R4年度)	実績値 (R5年度)	実績値 (R6年度)	状況	進捗評価	有識者からの意見	今後の対応方針
子育て環境満足度(「子ども子育て支援計画」策定時のアンケートにおける「満足」「ほぼ満足」の割合)	56% (H31年3月)	65% (R7年度末)	R6年度に評価	R6年度に評価	R6年度に評価	58% (R6.8)	5年毎に環境満足度調査を実施。R6.8にアンケート調査を実施。過去の調査結果と比較し、年々子育て環境の満足度が高くなっていることがわかる。ニーズ調査より、「保育料無料や給食費無料、子育て応援手当など経済的に助かる。」「保育園から中学校まで1人1人に手厚い支援、気配りがされて感謝しかない。他市町村に住んでいたときより子育てがしやすい環境だと実感している。」という意見や、「子どもが遊ぶ場があると良い。」「公園があっても遊具が古い、イベント以外整備がされていない」等の意見が多かった。今後は、令和11年度にアンケート調査実施予定。(第1回H26.8月調査46.9%、第2回H31.3月調査56%、第3回R6.8月調査58%) 関係機関と連携し、よりよい子育て支援を行っていく。	B.順調		
空き家情報バンクの増加件数	40件増加 (R2年末)	40件 (R7年末)	6	5	16	16	令和6年度末空き家バンク登録物件数93件(内入居募集中20件、交渉・検討中2件、入居中57件、取下げ12件)直ちに居住いただける優良な物件が少ない状況だが、目標件数は達成することができた。 引き続き固定資産税の納税通知書や管理不全空き家の管理についての通知に空き家バンクに関するチラシを同封する。また、死亡後の手続きに求められる際に空き家バンクのチラシを配布し、前向きな登録を促す。	A.すでに達成		
新たに整備した住宅等への世帯の転入	0世帯 (R2年末)	25世帯 (R7年度末)	0	0	12	0	令和4年度にPPP方式活用し事業者を決定、設計を行い、令和5年度に佐川地区に江府町移住促進住宅を12戸(賃貸)建設。R5.8から入居者募集を開始してから半年以内に全戸入居者が決定。補助金による家賃低廉化を実施。町内外から転入し、移住促進と人口流出抑止に寄与した。 旧庁舎跡地に分譲地を3区画、アパート1棟をR8年度に整備予定	B.順調		
住宅及び用地に関する相談件数	0件 (R2年度末)	100件 (R7年度末)	28	64	391	540	令和6年度空き土地に関する相談は12件。住宅(空き家)に関する相談は528件。所有者からの相談件数は270件と多くなっている。 本年度から空き土地バンクを制度に追加し、登録件数は7件だったが、利用の申請は0件だったため、利用に関する周知を行う必要がある。 空き家の賃貸売買が成立した件数17件(うち町外10件)	A.すでに達成		
ふるさと納税額	121,783千円 (R2年末)	196,132千円 (R7年末)	480,147千円 (R3年末)	587,245千円 (R4年末)	608,847千円 (R5年末)	617,552千円 (R6年末)	令和6年度は返礼品ラインナップの拡充に加え、既存返礼品に対する取組を推進した結果、堅調な実績伸長を達成できた。 寄付金の用途については、「自然環境の保全と活用」「子育て支援・教育の充実」等、目的別に積み立てを行っている。その他、「保育園らしくない保育園プロジェクト」など、個別のクラウドファンディングも随時実施している。 主なふるさと納税返礼品とクラウドファンディングについては別紙資料のとおり	A.すでに達成		

【基本目標Ⅱ】 産業の創出

指標	目標数値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	有識者からの意見	今後の対応方針
特定事業協同組合 あるいは地域商社 における雇用者数 (人)	0人(令和2年度末) →5人(令和7年度末)	0人	0人	0人	0人			
会社起業数(件)	0件(令和2年度末) →5件(令和7年度末)	3件	4件	3件	1件			
そば耕作面積累計(ha)	30(令和2年度末) →216(令和7年度末)	34.3ha	73.0ha	109.3ha	144.2ha			
商品開発数(個)	0(令和2年度末) →13(令和7年度末)	7個	8個	5個	7個			

●【基本目標Ⅱ】に対する個別評価

取組	策定時	目標値	実績値 (R3年度)	実績値 (R4年度)	実績値 (R5年度)	実績値 (R6年度)	状況	進捗評価	有識者からの意見	今後の対応方針
梨栽培面積(a)	13a	65a (R7年度末)	13a	13a	13a	59a	令和7年度完成を目指した46aの梨園整備計画を進行中。 令和6年度の11月に梨の苗木約700本を定植。 令和7年度は、網掛を設置予定。	B.順調		
繁殖牛飼育頭数	29	60 (R7年度末)	27	21	18	16	令和4年度に中止となった和牛アカデミーの一部であった受精卵活用を推進するため、令和6年度から受精卵購入代、OPU(牛の卵巣から卵子を吸引採取し、体外受精で胚を作成する技術)による受精卵作成、移植経費の補助事業を実施した。令和7年度も継続実施。	D.遅れている		
法人営農組織数	3	6 (R7年度末)	4	4	4	4	町内の集落営農法人は4法人。 現在、一集落が令和7年度の法人設立に向けて話し合いを行っているほか、法人化検討中の集落も一つある。	B.順調		
地域内消費額	273,751千円 (R2年度末)	349,383千円 (R7年度末)	278,118千円	262,061千円	264,266千円	233,102千円	目標値が課題であった。 人口減少により地域内消費は弱く、地域内での消費場所も増加する見込みはなく、施策を打って、現在の消費額を保つのが精一杯かもしれない。 前年度比より減少しており、R2年度目標値にも達していない。次年度以降も消費増を目指す。	C.やや遅れている		
チャレンジ支援事業 累計利用者数	5件	15件 (R7年度末)	9件	10件	12件	13件	R6年度 起業1件(フレンチレストラン) 東京から、江府町での開業をされ、起業準備資金としてチャレンジ支援事業を利用された。 現在のところ、予約も取れない状況になっている。 【新商品】 1.6人のお母さんが考えた「えごまプチプチ贅沢メンマ」(山の恵みの研究所) 2.ポラス炭(山の恵みの研究所) 3.Kuromoji kind Kissハンドクリーム(㈱デジタル&エンターテイメントワークス) 4.奥大山米粉クッキー(㈱奥大山ドリーム) 5.奥大山米粉ラングドジャ(㈱奥大山ドリーム) 6.奥大山米粉トルティーヤ(H.ALNOYUZ) 7.奥大山の超微細米粉(奥大山こめこの会)	B.順調		
新規就農者数累計	0人	2 (R7年度末)	0	1	0	0	果樹・酪農の新規就農予定者がそれぞれ1人ずつ研修により技術習得中。果樹の新規就農予定者は令和9年に就農予定。酪農の新規就農予定者は令和9年に経営移譲を受ける予定。また、1人野菜栽培技術取得中で、近年の就農を検討している。	B.順調		
シビエ加工品販売額	1,246千円	3,000千円 (R7年度末)	2,729千円	4,377千円	4,958千円	5,920千円	運営組織の令和6年度売上4,958千円に対し20%増となり、年々売上は増加している。	A.すでに達成		
道の駅奥大山来客者数	16.6万人	26.6万人 (R7年度末)	16.4万人	20.1万人	19.5万人	20.1万人	前年度に比べると、増加している。次年度は、イベント及び大型連休、夏休みなどの集客増を期待したい。 また、駐車スペースの増設等により、集客数は増える可能性があるとの見込み	C.やや遅れている		

【基本目標Ⅲ】 地域人材の育成

指標	目標数値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	有識者からの意見	今後の対応方針
ふるさとへの愛着を抱く子ども(中学3年生)の割合(%)	66%(令和2年度末) →90%(令和7年度末)	95	85.7	88.8	88.2			
地域運営組織数	0件(令和2年度末) →3件(令和7年度末)	0	0	0	1			

●【基本目標Ⅰ】に対する個別評価

取組	策定時	目標値	実績値 (R3年度)	実績値 (R4年度)	実績値 (R5年度)	実績値 (R6年度)	状況	進捗評価	有識者からの意見	今後の対応方針
まなびや縁側(公設塾)の江府町出身受講生徒数	0人 (R2年度末)	16 (R7年度末)	1	31 (R4年度末)	40 (R5年度末)	46 (R6年度末)	令和4年度から江府拠点が開塾し、奥大山江府学園日野川校舎の生徒(6年～9年生)と高校生を対象としている。6年生から9年生の受講生が多く、学びの場としての役割を十分に果たしているが、高校生の加入がない状況である。そのため、高校生が入塾するための方策を今後検討していく必要がある。また、複数講師の配置を目指しているが、人材不足により1名の配置が続いている。講師の確保についても重要な課題である。 【学園生数】119人 1年・8人、2年・15人、3年・10人、4年・15人 5年・17人、6年・10人、7年・18人、 8年・17人、9年・9人	A.すでに達成		
将来は江府町に住みたいと考える児童・生徒の割合	- (R2年度末)	100% (R7年度末)	-	-	-	-	アントレトレナーシップ教育事業によるアンケートによると「将来江府町に住む、住まない関わらず、町のために何かしたいと考えている生徒」は94.1%おり、昨年度の88.9%と比較して割合が増えている。本年度の事業実施前のアンケート結果は、58.9%であったため、この事業実施により35.2%増加している。	B.順調		
奨学金返済支援制度累計利用者数	1人 (R2年度末)	6人 (R7年度末)	2	3	6	8	前年度に比べ2人増加と、着実に利用者が増加している。支援額を18万円から30万円に増額したことや転入要件を緩和したことにより、移住定住促進の効果もあったと考える。今後も町報掲載やHPで周知をしっかりと行っていく。 【支援要件】 ・町内に住民登録、町内在住 ・就業、継続勤務 ・町税等の滞納なし ・町が指定するボランティア活動に1回/年参加	A.すでに達成		
地域運営組織累計設立数	0 (R2年度末)	3 (R7年度末)	0 (R3年度末)	0 (令和4年度末)	0 (令和5年度末)	1 (令和6年度末)	設立件数の達成はマンパワーを考えると難しく、目標値の達成が課題であった。令和3年度から米原地区の各集落で「米原地区を次世代につなぐ」をテーマに検討し、意見交換の回数を重ね、少人数での有志で組織化をすることとなり、令和6年7月に発足。現在も自主的に協議を重ね、持続可能な地域になるため活性化に資する事業を検討、実行している。また、出かける役場推進室が、住民あるいは団体に個別に聞き取りを行い、個別支援より地域全体への支援が必要と意見をもらっており、今後の広がりを期待する。	B.順調		